

— 広 告 —



刀根 一将 (とね かずまさ)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
建築学専攻  
博士前期課程二年  
三重県 三重高等学校出身

## 合理的な形の建築を見たとき これはすぐく素敵な空間だなど。

父も祖父も一級建築士。職場は別々だが、父は金沢工大建築学科の出身でもある。その上、曾祖父も建築家。刀根さんは建築学科に進むべき環境で育った。幼いころから施工現場に連れて行ってもらって、最初は大工さんになりたかった。進学は、父の面倒見のいい大学の一言が決め手になった。

「学部時代は夢考房で建築デザ

インプロジェクトに参加し、サブリーダーをやっていました。模型班で、サイエンスヒルズこまつといううねる波のような形状の建物の模型を作りました。西村先生は、普段は自由に研究させてくれますが、気になるときは問題を解決するまで一緒に考えてくれますね。」  
指導教授の西村督先生の専門は、構造安定問題に関する計算力学。

合理的な構造や美しい造形作品を学生たちと創り出していこうとしている。刀根さんは、昨年のマレーシアのシェル・空間構造に関する国際会議でBest Paper Awardを受賞したが、これは西村先生との共著論文であった。

「この大学は、テストよりレポート。それにグループ活動やプレゼンの機会が多く、それをまとめて学外で発表することもいい経験になります。現在の研究は、仮称ですが『発見的手法を適用した建築材料の多目的形状最適化』で、舗道に使われるブロックが対象です。建築材料には強度以外に温湿度を調整する環境性能など、幾種もの条件を満足する適切な形状が要求されますから。」

刀根さんは何枚もペーパーを開きながら丁寧に研究テーマの説明をしていく。要は合理的な形、力に対してムダがない形を見つける研究である。つまり、建物に限

らず、最適形状が一番美しい形状だと確信しているのだ。

「就職は、構造設計というのは決めていて、なるべくグループで活動できることが希望ですね。それで、大規模なプロジェクトに関わりたい。構造設計は絶対的なものだし、人の生命を守るという非常に責任と誇りの持てる仕事ですから、やりがいがあります。すでに数社の会社説明会に行きました。昨年は三つの学会に参加しましたが、今の研究をまとめて今年も発表する予定です。」

刀根さんは意匠も好きだったけれど、高校で物理を克服し、構造を選択した。コレという答えが出せるので完全燃焼できるという。建築物の意匠と構造は表裏一体、構造は基礎の基礎。さらなる刀根さんの研究成果を期待したい。

### 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七ー一  
電話番号(〇七六二)四八二一〇〇

KIT  
キャンパス  
レポート ⑧  
文・出島二郎  
マーケティングプランナー